

環境意識に関する一考察Ⅳ
——女子短大生の環境意識分析を中心として——

A Study on Environmental Consciousness Ⅳ
——Focusing on the Analysis of Environmental Consciousness
of Women's Junior College Students——

荒井 義則

ARAI Yoshinori

環境意識に関する一考察Ⅳ

——女子短大生の環境意識分析を中心として——

A Study on Environmental Consciousness Ⅳ

——Focusing on the Analysis of Environmental Consciousness of Women's Junior College Students——

荒井 義則

ARAI Yoshinori

要旨：地球環境の悪化は深刻な状況になりつつある。特に地球の温暖化は「温暖化の暴走」といわれるほど進展が速く、さまざまな悪影響を多方面に及ぼしている。これらの環境悪化は人間の活動が主な原因であり、解決を困難にしている。解決のためには人間の意識の変化が重要である。そのためには、まず現状での環境意識を知ることが必要となる。本稿では女子短大生を対象に実施した環境に関するアンケートを分析し、現状での環境意識を解析する。

キーワード：環境問題、地球の温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨

1. はじめに

地球環境の悪化は日常生活に多大な悪影響を与え、人類全体の生存まで脅かしている。地球環境問題は国連・政府や一部の専門家だけでは解決は不可能で、一般の人々の生活様式の変革にかかっている。それゆえ、いろいろな人々の環境意識に関する調査が実施されている。

本稿では、女子短大生の環境に関するアンケートを分析することにより、女子短大生の環境意識を解析する。現在の状態が続く限り、現短大生が社会の中心となって活動するところには、地球環境は更なる悪化の一途をたどり、日常生活への悪影響は甚大なものとなる。したがって、現短大生の環境意識を調査することの重要性は少なくない。

本アンケートは埼玉女子短期大学の環境問題に関する授業（くらしの科学）の授業時（環境問題の授業に入る前）に受講生に対して無記名で実施したものである。提出は任意で、研究発表に

用いることは事前に伝えてある。実施時期、提出した受講生の人数は以下のとおりである。

2010年9月14日「くらしの科学」授業時 提出した受講生：19名

2. アンケートの調査内容

以下にアンケートの設問内容を示す。

地球環境問題に関するアンケート

(1) 地球環境問題に関心がありますか。

- ①非常にある。
- ②ある程度はある。
- ③あまりない。
- ④まったくない。

(2) 地球環境問題に対する以下の考え方のうち、あなたの考え方に近いのはどれですか。

- ①地球環境問題は政府や自治体、あるいは国連が解決すべき問題であり、自ら取り組む必要はない。
- ②科学技術がさらに進歩すれば解決できる問題であるから、自ら取り組む必要はない。
- ③地球環境問題は重要な問題であるから、自ら積極的に取り組む必要がある。
- ④まったく関心がない。

(3) 地球環境の保全と経済発展に関する以下の考え方のうち、あなたの考え方に近いのはどれですか。

- ①経済発展を多少犠牲にしても地球環境の保全に取り組むべきである。
- ②経済発展と地球環境の保全は両立できる。
- ③地球環境の保全より経済発展を優先すべきである。
- ④わからない。

(4) 地球の温暖化について教えてください。

- ①まったく知らない。
- ②聞いたことはあるが、内容はよくわからない。
- ③ある程度はわかる。
- ④よく理解している。

(5) オゾン層の破壊について教えてください。

- ①まったく知らない。
- ②聞いたことはあるが、内容はよくわからない。
- ③ある程度はわかる。
- ④よく理解している。

(6) 酸性雨について教えてください。

- ①まったく知らない。
- ②聞いたことはあるが、内容はよくわからない。
- ③ある程度はわかる。
- ④よく理解している。

(7) 砂漠化について教えてください。

- ①まったく知らない。
- ②聞いたことはあるが、内容はよくわからない。
- ③ある程度はわかる。
- ④よく理解している。

(8) 京都議定書について教えてください。

- ①まったく知らない。
- ②聞いたことはあるが、内容はよくわからない。
- ③ある程度はわかる。
- ④よく理解している。

(9) 小学校や中学校で環境について学習したことはありますか。

①ある。

②ない。

(10) 高校で環境について学習したことはありますか。

①ある。

②ない。

(11) 学校以外で環境について学習したことはありますか。

①ある。

②ない。

(12) (11) で「ある。」と答えた人にお尋ねします。どこで環境について学習しましたか。

(13) 環境によい商品について答えてください。

①少しぐらい高くても環境によい商品を購入する。

②普通の商品と同じくらいの価格であれば、環境によい商品を優先的に購入する。

③商品を購入するときには、環境については考慮しない。

(14) 電気や水道について、すでに行っているものについては「1」、これから行いたいものには「2」、行うつもりのないものには「3」を（ ）内に記入してください。

①不必要な照明はこまめに消す。（ ）

②テレビやラジオはつけっぱなしにしない。（ ）

③長時間使用しない家電製品のプラグはコンセントから抜いておく。（ ）

④冷蔵庫にもものをつめすぎたり、頻繁にドアを開けたりしない。（ ）

⑤水やお湯はだしっぱなしにしない。（ ）

⑥お風呂の水は有効に使う。（ ）

(15) ごみの削減について関心がありますか。

①非常にある。

②ある程度はある。

③あまりない。

④まったくない。

(16) (15) で①、②を答えた人にお尋ねします。ごみの削減について行っていることあるいは今後行いたいことを以下に書いてください。

(17) パリ協定について答えてください。

①まったく知らない。

②聞いたことはあるが、内容はよくわからない。

③ある程度はわかる。

④よく理解している。

3. アンケート結果

(1) 設問1～11、13、15、17の結果

以下の表に設問1～11、13、15、17の結果をまとめてある。表中の数値は回答の割合を表す百分率であるが、小数第2位を四捨五入してあり、また、無回答もあるので合計が必ずしも100%になっていない場合がある。

表1 設問1～11、13、15、17の結果

設問	選択肢			
	①	②	③	④
1	5.3	63.2	26.3	5.3
2	0	15.8	68.4	15.8
3	26.3	42.1	0	31.6
4	15.8	31.6	42.1	10.5
5	15.8	47.4	36.8	0
6	15.8	63.2	15.8	5.3
7	26.3	42.1	26.3	5.3
8	52.6	47.4	0	0
9	94.7	5.3	—	—
10	63.2	36.8	—	—
11	0	100	—	—
13	15.8	52.6	31.6	—
15	10.5	52.6	26.3	10.5
17	63.2	26.3	0	0

(2) 設問14の結果

以下の表に設問14の結果をまとめてある。表中の数値は各問①～⑥における選択肢1、2、3が選択された割合を表す百分率であるが、小数第2位を四捨五入してあり、また、無回答もあるので合計が必ずしも100%になっていない場合がある。

表2 設問14の結果

選択肢	番号		
	1	2	3
①	94.7	5.3	0
②	89.5	10.5	0
③	52.6	36.8	10.5
④	52.6	42.1	5.3
⑤	84.2	15.8	0
⑥	57.9	21.1	21.1

(3) 設問16の結果

芯のないトイレットペーパーを買う。

ダイレクトメールがなくなればよいと思います。

物は最後まで使う。

ペットボトル等をリサイクルの箱に入れる。

リサイクルを行う（3名）。

再利用できるもの、まだ使えるものをむやみに捨てない。

使いきれぬまで使う。

ごみになるようなものは買わないようにする。

好き嫌いが多から食べ物を残してしまう。なるべくこういうことがおきないように工夫する。

この結果から、リサイクルや物は最後まで使うという「もったいない」精神が見て取れる。この点は評価できる。

4. アンケート結果の考察

4.1 全般の解析

(1) より「非常にある」、「ある程度はある」を合わせると68.5%に上り、かなりの学生が地球環境問題に関心を寄せていることが分かる。この理由の一つは、(9)～(10)の結果から分かるとおり、小学校・中学校・高校における環境教育の影響がある。小学校・中学校では94.7%、高校では63.2%が環境教育を受けており、大部分の学生が環境の学習の経験を有している。環境教育の重要性はこの例から考えても明らかである。これらの要因により学生の地球環境問題に寄せる関心が高くなっている。ただ(11)より、学校以外では環境教育を全員が受けていないことがわかるが、過去の調査ではこのような結果は得られなかったもので、やや心配な点ではある。

(2) より「自ら取り組むべき」と考える学生が68.4%と多数を占めており、自らの問題と考えている学生が大部分を占める。このことは環境問題の解決に寄与する。一般の人々の環境に対する取り組みが環境問題の解決に大いに役立つからである。

環境問題の知識については、「まったく知らない」と回答した学生が「温暖化」15.8%、「オゾン層の破壊」15.8%、「酸性雨」15.8%、「砂漠化」26.3%となり、過去の調査に比べるとかな

り高い。また「よく理解している」と回答した学生が「温暖化」10.5%、「オゾン層の破壊」0%、「酸性雨」5.3%、「砂漠化」5.3%と「温暖化」を除いて10%を下回っている。環境問題に対する知識の減少は問題である。環境問題の解決には正確な理解が第一歩である。短大・大学における環境教育の果たす役割（正確な理解を与える）はますます重要性を増している。「京都議定書」については「まったく知らない」と回答した学生は52.6%であり、「パリ協定」については63.2%である。国際的動向に関心がない学生が増加しているのがわかる。環境教育の授業においてもこの点を考慮する必要がある。

(13) の回答を見ると、「環境によい商品」について「同じぐらいの価格なら購入する」が52.6%であるが、「考慮せず」31.6%が「高くても買う」15.8%を上回っており、環境に対して積極的に支出するという面が見られないのは残念である。今後は「普通の商品と同じ価格の環境商品」の開発が重要になってくる。

(14) の電気・水道については、①、②、③、④、⑤、⑥すべてにおいては「1」すなわち「実施している」と回答した学生が50%を越えており、実生活でも環境に配慮した生活をしていることが分かる。意識や知識だけでなく実践を伴っている点は評価できる。

(15)、(16) のごみについては「非常にある」、「ある程度はある」を合わせると63.1%となり、環境問題同様関心の高さが伺える。(16) の例から考えると、実生活においてもごみの減量にむけてリサイクルや物を大事に使う「もったいない」精神が実践されており、この点は評価できる。

これらの結果を要約すると、地球環境問題について、意識や知識は以前の調査に比べると低下しているが、日常生活ではできる範囲で環境にやさしい生活を実践している学生が多いことが分かる。この点は大いに評価できる。

4.2 環境意識と経済活動

(2) で「積極的に取り組む必要がある」と答えた学生が(3) の経済活動についてどのような回答をしているかを見ると、①「経済を多少犠牲にしても取り組むべき」が30.8%、②「両立できる」53.8%、③「経済優先」0%、④「わからない」15.4%である。環境問題に積極的な学生は環境を優先するか、経済との両立を望む学生が多く、経済優先を望む学生は皆無であった。全学生の割合と比べると、①「経済を多少犠牲にしても取り組むべき」がやや多く、②「両立できる」が多くなっているが、ほとんど同じ傾向である。この理由は大半の学生（68.4%）が(2) において③「自ら積極的に取り組む」を回答しているからである。

5. 終わりに

本稿では、短大生の環境アンケートを分析することにより、環境意識の解析を行った。結果は環境意識、知識は過去の調査に比べて低下しているが、生活実践では環境に良い行動を行っている学生が多い事が判明した。環境問題の知識の低下を補う意味でも短大における環境教育をより充実していかなければならない。

参考文献

- 1) 穂坂明徳「環境意識と環境保全行動の選択要因に関する考察：高校生の環境意識分析を中心として」『岐阜聖徳学園大学紀要教育学部外国語学部38』 67－85頁、1999.
- 2) 原田昌幸、久野覚「地球温暖化および地球環境問題に対する一般住民の意識」『空気調和・衛生工学会論文集62』 71－79、1996.
- 3) 加藤弘二・田中裕人・児玉剛史・玉澤友恵「環境保全活動に対する住民の参加意識の分析」『宇都宮大学農学部学術報告19(2)』 21－31頁、2005.